

現行のアナログ放送は 平成23年7月終了です

デジタル化を進める総務省は平成23年までに、「地上デジタルテレビ放送」を完結させるといっています。それまでは現行のアナログ放送も並行して見ることはできますが、平成23年7月24日には終了することになっています。つまり、今あるテレビや受信施設など、アナログ放送対応のものをあと5年ですべてデジタル対応型に変えなければなりません。

放送が映らない 難視聴地域の課題

「見るテレビから使えるテレビへ」と新たな時代へ進む「地上デジタルテレビ放送」。CD（コンパクトディスク）やDVD（デジタルバーサタイルビデオディスク）など映像や音響のデジタル化が定着する中、携帯電話などの普及で混み

合う電波の効率利用にも役立ちます。

しかし、日本全国には現行のアナログ放送でも、山間地やビル群などの影響で電波が届かなかつたり、乱れる「難視聴地域」があります。そこでは共同アンテナが必要になってきます。村ではこれまで鳥居、力持、落合などの難視聴地域に共同アンテナを設置し、

解消に取り組んできましたが、状況によっては、今以上に対応していかねければ、「地上デジタル」の網の目から漏れ、視聴できない可能性もあります。

まだまだ高い デジタル対応テレビ

気になる地上デジタル放送対応テレビの価格ですが、新聞などの折り込み広告を見てみると、32型の液晶テレビは安いものでも23万円以上、最も安い15型でも9万円前後です。

現行のブラウン管テレビだと29型で6万円程度で買えるものもあります。まだまだ高いイメージがあります。

皆さんの疑問に お答えします！

地上デジタルテレビ放送の完全移行に伴い、5年後に迎えるアナログ放送の終了。「今あるテレビはどうなるの?」「買い換えなければならないの?」そんな皆さんの疑問にお答えします。

Q&A

—今あるテレビで大丈夫ですか?—

皆さんの自宅のテレビが地上デジタル放送対応でなければ、専用のチューナーを買えば今のテレビで見れます。地上デジタルテレビ放送対応であれば、リモコンに「地上」という文字があります。



—わが家にはテレビが3台ありますが、チューナーは1台でいいのですか?—

チューナーは1台のテレビに1台必要ですから、3台必要になります。